

1. 評価報告概要表

作成日平成 22年1月20日

【評価実施概要】

事業所番号	1070500721
法人名	有限会社天輝
事業所名	グループホームチューリップ
所在地	太田市只上町1319-1 (電話) 0276-37-6526

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成22年1月18日

【情報提供票より】(平成21年12月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	14 人	常勤 2人 非常勤 12人 常勤換算	6.6人

(2)建物概要

建物構造	木造造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費15,000円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 60,000円	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	300 円	昼食 450 円
	夕食	300 円	おやつ 円

(4)利用者の概要(12月 1日現在)

利用者人数	8名	男性	0名	女性	8名
要介護1	2名	要介護2		0名	
要介護3	4名	要介護4		2名	
要介護5	0名	要支援2		0名	
年齢	平均 80歳	最低	76歳	最高	86歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	富士ヶ丘病院 ・ 長嶋歯科
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道50号線から少し入った田園風景の広がる環境のなかに、新しい木造1階建てのグループホーム・チューリップがある。ホームは「会話」を大切に、否定する言葉を使用せず、家庭の延長のように特別に敬語などにもこだわらない対応を心がけている。また個々の利用者が出来る事を発見し、日常生活で役割を持ってもらい、職員ともども助け合って生活しているような支援を行っている。毎日の散歩や日当たりのいい食堂兼居間で思い思いに自由な時間を過ごし、各々の役割を持って生き生きと暮らしている。地域社会との繋がりを深める努力も地道に進めており、これからの運営内容の選択肢の広がり期待されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での主な改善課題は職員全員で検討し、出来ることから取り組まれた。例えば、「地元から2名の職員を採用して、地域に根を下していく取り組み」「職員研修・勉強表を作成し、経験年数や家庭の状況を勘案しながら研修の機会を与える」等、改善のための具体策に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義について管理者が説明して職員全員で自己評価票を作成し、最終的に管理者が記載している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回、管理者・利用者全員・家族代表・地域住民代表・市職員・富士ヶ丘病院職員・ふる里職員が参加して開催され、ホームの行事予定・日常の利用者の状況・ホームの課題と今後の取り組み等がホーム側から報告される一方で、意見交換にはいたっていない。地元住民の参加要請や会議で意見が出し易いテーマづくりなど運営推進会議の活性化を期待したい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族が面会に来た時は、利用者にお茶を出してもらおう等話しやすい雰囲気づくりをしたり、時には別室で十分に時間を確保し家族の意見・要望を伺い、把握できるように努めている。寄せられた意見・要望は管理者に報告され、必要に応じて業務会議で話し合わせ、家族に報告されている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域性もあつてスムーズには地域に溶け込んでいないが、毎日の散歩の際の挨拶や地元からの職員2名の採用など、地道な活動は続けられている。ホームの家庭菜園を手伝ってくれたり、野菜やお菓子を持って訪れる近隣の方々もおり、徐々にに成果が出てきている。今後は近隣の幼稚園との交流の実現が検討されている。これからは地元行事の把握や各種行事での交流など、地道な努力の継続を期待する。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回の評価で「取り組みを期待したい内容」とされた理念を平成20年全職員で検討し、「地域の中で家庭らしく自分らしく過ごす」という理念を作り上げた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関に掲示されている。日常の業務のなかで、利用者それぞれの家庭を顧みて、「家庭的支援・家庭らしい支援」とはどのような支援かを考え、管理者を中心に実践されている。また、問題解決や支援方法について、月1回の業務会議で理念に立ち返り話合われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	まだ地域に溶け込んでいないが、毎日の散歩の際の挨拶や地元からの職員2名の採用など、地道な活動は続けられている。ホームの家庭菜園を手伝ってくれたり、野菜やお菓子を持って訪れる近隣の方々もおり、徐々に成果が出てきている。今後は近隣の幼稚園との交流の実現が検討されている。	○	地元行事の把握や各種行事での交流など、今後も地道な努力の継続を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の意義について管理者から話し、前回評価を受けて、理念の検討や研修計画の作成等業務会議で出来ることから取り組んでいる。自己評価については職員全員で取り組み、管理者が記載している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、管理者・利用者全員・家族代表・地域住民代表(地元保育園園長)・市職員・富士ヶ丘病院職員・有料老人ホーム「ふる里」職員が参加し、主に行事予定・入居者の生活状況・ホームの課題と今後の取り組み等がホーム側から報告される一方で、意見交換にはいたっていない。	○	地元住民の参加要請や会議で意見が出し易いテーマづくりなど運営推進会議の活性化を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が元気おとしより課や介護サービス課を訪ね、ホームの状況などの情報交換を行っており、年1回の情報提供書の提出も行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	四季にあわせ年4回発行の「チューリップ便り」に、利用者の暮らしぶりなどを掲載している。概ね週1回家族が面会に訪れるので、暮らしぶりや健康状態など詳しく報告している。また面会が少ない場合は月に一度は電話で近況を伝え、緊急時も電話で連絡をしている。金銭管理は1万円ほどを預かり、毎月レシートと小使い帳の確認を家族にお願いしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に来た時は、利用者にお茶を出してもらい等話しやすい雰囲気づくりをしたり、時には別室で十分に時間を確保し家族の意見・要望を伺い、把握できるように努めている。寄せられた意見・要望は管理者に報告され、必要に応じて業務会議で話し合わせ、家族に報告されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年度個人的な理由で3名の離職者が出たが、ことさら離職者について詳しい説明はしていない。日頃から職員が一人で問題を抱え込まず、新採用職員も利用者にも早く溶け込めるよう、管理者が中心になり話しかけたり、指導している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「職員研修・勉強会予定表」を作成し、職員の経験年数や家庭の状況等を勘案して管理者が案内している。研修会等の結果については業務会議で報告され、職員の共有化が図られている。研修会等の資料は事務所にあり、誰でも閲覧が可能である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会の各種会議や研修会に参加するとともに、独自に特別養護老人ホームや養護老人ホームとの交流も実施している。今後、小規模多機能事業所との交流も検討されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	現在は病院からの入居がほとんどで、入居希望者には病院を訪問し、本人や家族から希望・要望等を詳しく聞いている。また、ホームを見学してもらい利用者とお茶をともにするなどして、馴染めるか体験してもらっている。入居後は観察シートに細かく記入し、本人の状況をより詳しく知るようにするとともに、より多くの言葉かけを心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームでは日常生活の「会話」を大切に、否定する言葉を使用せず、家庭の延長のように特別に敬語などにもこだわらない対応を心がけている。利用者は職員が帰る時は声をかけ、出勤時は迎え入れる等本当の家庭のような声かけに支えられていると気づくことがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの見守り・観察・会話を大切にしている。利用者の約半数が言葉で表現することが困難であり、表情や単語から本人の思いを汲み取り、これまでの生活スタイルを大切にケアを心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員が利用者一人ひとりの睡眠や食事等の日常生活・家族関係・社会心理等の項目のある「観察シート」に細かく記入して、それを基に計画作成者が計画を作成し、会議において全職員で話し合っている。計画内容の評価は、管理者と計画作成者で行っている。面会時に家族からの意見・要望を把握し、介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の担当者会議でモニタリング記録・ケース記録に基づき、3ヶ月ごとに介護計画の見直しを行っている。会話が増えたが認知度が下がったという例もあり、状況の変化に応じて、受診時の医師等の意見・家族の意見を介護計画に反映させている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	基本的に受診は家族対応となっているが、必要に応じて職員の対応や協力病院のバスの利用もしている。利用者本人の訴えを聞くなか、家族の意見も参考に買い物やお墓参り等本人の望む所へ家族の協力も得ながら出かけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の希望を聞いているが、現在は全員が協力病院をかかりつけ医として、受診時は管理者が付き添い日頃の状態を説明している。協力病院にない眼科や皮膚科の受診は原則家族の付き添いだ、場合によりホームでの送迎も行っている。受診後の対応についても申し送り簿で職員に周知できるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に家族等にホーム作成の「重度化指針」を説明し、「医療連携体制同意書」に記名・捺印をいただき、理解いただいている。ホームとしては食事が摂れなくなった場合は対応が難しく、重度化や看取りについては、医療機関での対応を原則としている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	呼称は、本人の希望する呼び名としている。職員が居室に入る際は、必ず声かけてからにしている。2ヶ所あるトイレの一つは、便器を見てトイレと認識する利用者もいることから、カーテンでの対応となっている。個人情報の守秘については、契約書・個人情報利用同意書等により、家族等に説明され、同意を得ている。記録類は事務所保管となっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、時間を区切ることなく利用者のペースで過ごせるよう支援している。食事の時間を変更する、居室でハーモニカの練習をする、編み物をする、共有スペースのソファに座る、散歩に出る等各々の過ごし方をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食堂兼居間にオープンキッチンがあり、利用者が食事の準備や後片づけに参加しやすくなっており、テーブル拭きや皮むき・おやつづくりなど利用者が出来ることに参加している。献立表は職員が作り、家族に配布している。食事は、職員といっしょに同じものを談笑しながら食べている。また、月1回は外食に出かけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は週3日となっているが、希望によりいつでも入浴可能である。失禁時や夏場のシャワー浴等、臨機応変に対応している。入浴は個別浴で職員が見守りながら楽しんでいる。時期により、菖蒲湯や柚子湯等も行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割については、毎日個々の能力を見定めながら、作業内容を具体的に示して、本人から手を上げてもらい決めている。家庭菜園での収穫・花などの水やり・裁縫・料理の準備など、各々が何らかの役割を担っている。掃除は利用者全員で行っている。日々の外出・レクリエーション・誕生会・年4回のお花見など、楽しんでもらえるよう多くの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日散歩に出ている。利用者全員の希望は聞き取れないが、月に一度は外出や外食・季節にはお花見へと機会を見ては戸外に多く出られるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関フロアと共有スペースの間のドアに鈴は付いているが、日中玄関に鍵をかけていない。職員の見守りのなか自由な移動ができています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防の協力を得て、昼間と夜間を想定しての避難訓練を実施している。夜間の想定の際は、地元採用の職員の家族の協力を得ている。機器の点検・誘導係・連絡係などの担当者を決め、緊急連絡網を作成している。	○	災害時に地域の人々の協力が得られるよう働きかけに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日の食材で献立表を作っている。食事制限者は医師と相談し、献立を考えている。毎食後、水分摂取量・残量の把握を行っている。食後・外出後・入浴後等、特に水分補給に努めているとともに、発汗の状況等の観察を重視している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼居間は南側が大きく開けていて、たっぷりの日差しと戸外の展望が空間を居心地のいいものにしていく。テレビ・ソファ・観葉植物が置かれ、くつろいだ雰囲気となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム側で設置したベットと整理筆筒のほか、本人の使い慣れたテーブルや椅子など、本人の希望する物が持ち込まれている。室内には家族の写真・カレンダーなどが飾られ、居心地良く過ごせるよう工夫されている。		